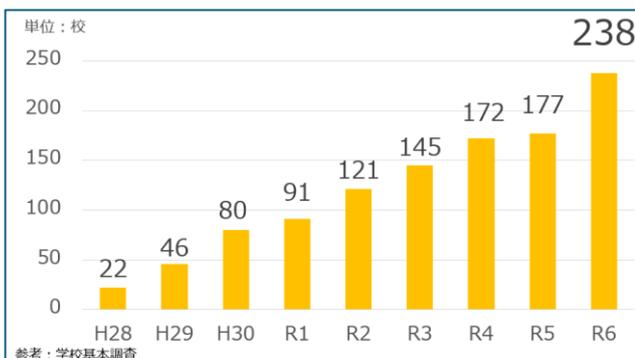


## ○そもそも義務教育学校とは何だろう？

平成28年に国が制度化した小学校でも中学校でもない新たな学校形態です。1年生から9年生までが共に学び、共に生活する義務教育学校は全国的に増加傾向にあります。平成28年は22校でしたが、令和元年には91校、令和6年には238校になりました。岐阜市では、令和7年4月に岐阜市立初の義務教育学校「藍川北学園」が開校し、「藍東学園」は2校目の義務教育学校となる予定です。



## ○義務教育学校のよさ

具体例をあげて、義務教育学校のよさを紹介します。

### 1 9年間を見通した柔軟な教育課程が編成できる。

- 学校独自の教科の工夫など、より特色ある教育ができます。（藍川北学園では「わかあゆ学」の実施。）
- 学習内容の前倒しや補足的な学習に対応しやすくなります。

### 2 学園職員のマンパワーをより活かすことができる。

- 1つの学校として教職員一体となり、1年生～9年生まで、どの学年の子どもたちにも卒業まで見通しをもって関わるができます。子どもたちを職員全員で見守り、支え、育てる動きがとりやすくなります。

### 3 低学年からの教科担任制がより効果的になる。

- 学園の先生全員で、1年生から9年生まで一貫した指導できるため、専門の先生ならではのより詳しい知識、ものの見方や考え方についての指導など、より専門性の高い授業となります。

### 4 日常的な異年齢交流が増える。

- 思いやりの心、コミュニケーション能力が育ちます。例えば、8年生の子が、2年生の面倒をみます。その優しさに触れて、2年生の子が、8年生の先輩の姿にあこがれをもつようになります。そのような上下関係を学びながら、社会性を育成できます。

## ○説明会でいただいた義務教育学校になることの懸念事項のご意見にお答えします

### ・行事が減るのではないか。

→県内初の義務教育学校の白川郷学園では、新しいシステムで不安や疑問は生じたが、実際には行事が減るということはありませんでした。むしろ、増やすこともできると考えています。

### ・6年生は最高学年になることでリーダー性が育つのではないか。

→9年間を見通し、子どもたちの成長に責任をもって見守っていくことで、6年生なりのリーダー性を育むことはできると考えています。同時に、いわゆる「中1ギャップ」を解消することにつなげていきたいと考えています。

### 次号の予定

- 異年齢の関わりについて、「岐阜市立初の義務教育学校、藍川北学園の様子」「芥見東小と藍川東中に異年齢の関わり」をお知らせする予定です。